

高87.5億円(前期比2.8%増)、営業利益26億円(13.0%増)と1けた%増収、2けた%増益を見込む。営業利益率は0.2%高まり、2.9%になる見通し。

下期は為替相場が現状維持との前提で、上期けん引した中東トープ地輸出入が好調を維持すると見られる。さらに「円安に伴うコストアップ分の転嫁が50%にとどまるスポーツウエア、ユニフォームは新商品への入れ替えなどにより収益改善させる」(佐野茂樹取締役常務執行)

上期(4~9月)の繊維・商事事業は売上高43.8億円(2.6%増)、営業利益11億円(26.2%増)。中核企業である東洋紡STCの繊維事業も売上高が4%増も、営業利益は77%増と大幅な収益拡大となり、利益面で繊維・商事事業をけん引した。

ただ、アクリル短繊維製造の日本エクスラン工業は主力の中国輸出の落ち込みから苦戦し、営業利益が10%減。アクリル短繊維だけを見ると、25

シキボウは、収益が低もベトナム生産の拡大に迷っている原糸事業の再編を検討する。ベトナムでの委託生産先との連携を強化すると同時に国内の富山工場の規模縮小を視野に入れる。

同社は現在、ベトナムの協力工場への原綿供給・技術指導による委託生産を行っているが、今後

新作続々 「泉州こだわりタオル」

大阪タオル工業組合はこのほど恒例の「大阪・泉州こだわりタオル」新作展示会を開き、各メーカーが約80点の新作を披露した。海外初出展の「ホーミ・ミノ」に合わせ



「SUTTO スタンダードタイプ」

「ミノ10カラー」の本邦初披露や、昨年から同工組の中澤茂理事長も「個性がより前面に出て透かし織」のストック色きた」と語る。印象に残

原糸事業再編を検討

原糸事業再編を検討

シキボウ

シキボウは、収益が低もベトナム生産の拡大に迷っている原糸事業の再編を検討する。ベトナムでの委託生産先との連携を強化すると同時に国内の富山工場の規模縮小を視野に入れる。

同社は現在、ベトナムの協力工場への原綿供給・技術指導による委託生産を行っているが、今後

シキボウの2015年4~9月期連結決算は売上高22.2億円(前年同期比0.8%減)、営業利益13億円(11.2%増)、経常利益10億円(13.4%増)、純利益5億7900万円(11.6%増)だった。繊維事業が黒字浮上し多こと収益が改善した。

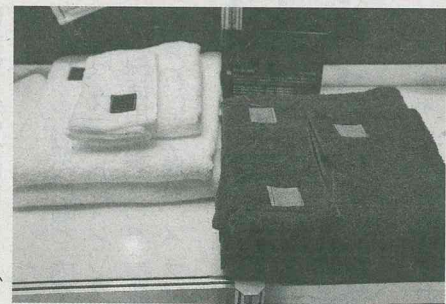
繊維事業は売上高13.8億円(3.1%減)、営業利益1.800万円(前年同期は6100万円の損失)と黒字浮上した。苦戦していた縫製品事業

た新作を連載で紹介する。

新興タオル

「SUTTO」シリーズ

新興タオル「SUTTO」シリーズは「大阪製ブランド認定「おうえーやん」後継の新主力商品。吸水性はそのまま、高級感、しっとり感を補った。特殊「層構造系」オフセットヤーン(綾部紡績への特注糸)が作る空気層が水分を素早く吸収し、芯糸で保持。表面はサラサラに保つ速吸水を実現。コシと柔らかさを兼ね備える肌触りも特徴



「パイル・デ・ABM」

保吉タオル

「パイル・デ・ABM」

「パイル・デ・ABM」縫い付けなど、細かな演出もポイントだ。

「ABM」の14番手糸をパイルに採用。当初狙ったざっくり感に加え、意外なほどのソフトな仕上がり特徴だ。洗濯を重ねることで、風合いはよりのしやかに。17寸(バスタオル)、14寸(フェース、ハンドタオル)と、1平方分当たりの目方をオンスで表示し、デニム地のラベルを縫い付けるなど、細かな演出もポイントだ。

シキボウ

シキボウの2015年4~9月期連結決算は売上高22.2億円(前年同期比0.8%減)、営業利益13億円(11.2%増)、経常利益10億円(13.4%増)、純利益5億7900万円(11.6%増)だった。繊維事業が黒字浮上し多こと収益が改善した。

繊維事業は売上高13.8億円(3.1%減)、営業利益1.800万円(前年同期は6100万円の損失)と黒字浮上した。苦戦していた縫製品事業

ブラジル低迷で営業損失

オミケン

オミケンシの2015年4~9月連結決算は、売上高67億円(前年

繊維は赤字幅拡大

日東紡

日東紡の2015年4~9月連結決算は売上高433.8億円(前期比0.7%増)、営業利益56億円(39.0%増)、経常利益56億円(44.3%増)、純利益26億円(20.8%増)と売上げ横ばいながら大幅な増益だった。グラスファイバーの原織材が2けた%の増収増益となったことが寄与した。

繊維事業は売上高27億円(6.7%減)、営業損失は2億600万円の損失

失(前年同期は7200万円の損失)と赤字幅が拡大した。婦人アパレルの不振が芯地、紡績とも影響。芯地は中国子会社も日系アパレル向けが不振で、現地アパレル向けは伸びたが、カバールシキれなかった。紡績系も需減の一方で高付加価値品は伸びたが、小ロットのため採算は悪化した。通期では中国経済の減速などを見込み、売上高900億円、営業、経常利益80億円、純利益45億円と当初予想を据え置いた。

ユニフォームの新時代を提案するカスタムマガジン

Uniform Plus

ユニフォームプラス

2015年11月号 好評発売中

定期購読お申し込み書

各項にご記入の上、FAXで **06-6226-010**

ユニフォームプラスの購読を申